

# 株式会社呉竹

奈良県

【経営者の声】

代表取締役社長

綿谷 昌訓さん



呉竹では、機械で製造する製品以外に、手作業で一つひとつ仕上げる工程もあり、例えば箱折りや袋入れ、ラベル貼りなど、さまざまです。それらの一部を知的障害の方が担当してくれています。

ただ、誰でも得手不得手はあります。集中力が続かないこともあります。

知的障害者の方を受け入れて気づいたのは、誰にでもそうした個性があるということです。工程の中の危険性にはどんなものがあるのかを常に考えさせてもらいました。これまでは作業者のスキルだけでこなしてきたことを、どんな人でもできる作業にするという課題を見つけさせてくれたことが良かったのではないかと思います。そして、その作業の監督者に対して、ダイバーシティの意識、仕事の教え方、育成の仕方を学ばせる機会をいただいたと思っています。

障害者の方が、いかに社会人として仕事をし、自立していくかを考えることが会社の宿命と考えています。さまざまな仕事を体験してもらい、その方の特性を生かして適材適所に配置し、誰もが安全に仕事ができる環境と、誰もがどんな仕事でもできるような職場づくりをしていきたいと考えています。いわゆる、属人的な仕事の仕方ではない体制であり、中小企業だからこそ、縦割りではなく横断的に人員配置できるような体制をつくるのが理想です。

## 直面した課題と対応策

### 従事する職務の選定

作業で使用する機器、用具等でけがをしないように、安全確保が課題だった

新しい職務を増やす時には、障害者の配置前に、総務部の担当者が作業場所で直接見て、安全性を確認

一人ひとり得意・不得意があるので、どのような作業で能力を活かせるかわからなかった

さまざまな作業を体験させてみて適性を判断

### 職場定着のための工夫

職場の担当者と上手に関係構築ができないことがあった



採用後1年間は、障害のある者だけのグループに配置

専門の指導担当者が障害者を指導・育成

適性をみて、各部署に配置

長期勤務者の高齢化により、老眼や集中力低下などの問題が見られるようになった

作業環境の改善、業務や勤務形態の見直しにより、働き続けられるよう支援

